

第627回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2020年10月度 ——

- ◇ 開催日
2020年10月19日(月)
- ◇ 議題
＜テレビ番組＞「走れ！山笠 特別編 山笠サミット2020」
放送日：7月11日(土)午後3時30分～午後4時30分
- ◇ その他
「2020年度上期の番組種別の公表報告」

九州朝日放送株式会社

第627回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2020年10月19日(月)午後3時25分～4時40分

2. 開催場所 九州朝日放送 7階A会議室

今回は「新型コロナウイルス」感染防止（三密回避）の観点から、十分にソーシャル・ディスタンスを確保するため通常より広い会議室にて開催した。

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 6名

委員長	戸田	康一郎
副委員長	赤木	由美
委員	中山	裕二
委員	石井	靖子
委員	石橋	和幸
委員	藤村	まこと

欠席委員数 2名（リポート代読）

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和氣	靖
常務取締役	笹栗	哲朗
総合編成局長兼ラジオ局長	坂井	剛
報道情報局長	柴田	高宏
報道情報局 報道情報センター長	川崎	浩司
報道情報局 プロデューサー	下妻	宏平
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	石橋	聡
番組審議会事務局（視聴者・広報室）	松永	俊郎

4. 議 題

- (1) テレビ番組「走れ！山笠 特別編 山笠サミット2020」
放送日：7月11日(土)午後3時30分～午後4時30分
- (2) 2020年度上期の番組種別の公表報告
- (3) 10月・11月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告
- (4) 9月 視聴者・聴取者応答状況の報告
- (5) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 博多祇園山笠を知らない人も詳しい人も双方が楽しめる仕掛けがたくさんされていたと思う。博多祇園山笠の歴史が鎌倉時代にまでさかのぼることなど、知らない事ばかりで興味深く番組を楽しむことができた。60年間の取材を続けたKBCならではの制作番組だと感じたし、何かあっても必ず番組を継続するという作り手の「意地」を感じた。
- 終戦後の博多祇園山笠復活の物語は大変感動的だった。博多祇園山笠振興会 初代会長落石栄吉さんと岩崎利造さんを中心に、その子孫や関係者の話が非常に丁寧に取材されていたと思う。生の証言は、当時の写真と共に大きな説得力を加えたと思う。
- 戦後の博多祇園山笠復興の歴史とコロナ禍からの復活を、時代を超えてだぶらせたことにより、地元の視聴者にある種のヒントと復活のための元気を与えることができたのではないかと。テレビに限らずメディアの大きな役割を果たしていたと思う。
- 「延期」によりいろいろな人が受けた影響や人間ドラマが上手に描かれていた。例えば、病気で最後の博多祇園山笠になるはずだった野入さんと仲間の絆を映した場面では、映像を交えてきちんと取材されていたと思うし、非常によく構成されていると感じた。
- 元大学教授でプログラミング言語の世界的な権威の荒木さん（西流）の「デジタルとアナログが根っこではつながっている」という話しや、千代流の昇き手の「(町が) 家族のような存在」との話は印象深かった。「のぼせもん」たちの熱い思いを感じることができた。
- 個人で情報発信が可能なメディアが発達しているものの、改めてここまで作り込めるのは放送局だけだと思った。多数の情報源を基にインタビューも行っていて、極めて多面的な取材だと思った。誠実な作品づくりだった。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 番組名に「山笠サミット」とあるので、異例の「延期」を受けて「来年はこんなことをやろう」というような話を期待したが、特に触れられる内容ではなかった。また、様々な行事について、毎年たくさんの説明を（新聞などでも）見聞きしているはずだが、未だによく理解できていない部分もあるので、できれば今回の番組でも説明が欲しかった。
- 福岡市の高島市長や作家の辻仁成さんらの台上がりのエピソードはとても面白かったが、著名人の台上がりは「集団山見せ」の時だけと正確に伝わったのが気になった。同様に

「総務」という言葉も出てきたが、一般の視聴者にはその役割が十分に分からない人もいる。もう少し説明が欲しかった。

- 博多祇園山笠を「知っているようで知らない」という立場で登場したゲストの黒瀬純さん（パンクブーブー）と大原梓さんについて、そうした役割のゲストが2人も必要だったかと疑問に感じた。また、せっかく盛り上がった感動話の後のコメントも少し軽い気がした。
- 番組終盤に七流が紹介された場面は、少し「おなかいっぱい」になった。流に関わる人たちの人間模様を含めて様々な視点から紹介していたが、少し内輪話が多いと感じた。博多祇園山笠に熱い思いを抱く人ばかりではなく、そうした視聴者には「冷めた」印象を与えたのではないかと。

などの評価や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 「知っているようで知らない」博多祇園山笠の魅力を伝えるため、まず、あまり知らない番組制作担当者自身がどういう構成にすれば楽しめる番組になるかを考え、長い歴史の中で触れられていないエピソードはないかスタッフと知恵を絞った。
- KBCには長く取材を続けてきた伝統があり、取材を重ねてきたという自負がある。番組制作担当者たちが使命感を持って取材を重ねた結果、深掘りできた取材もあったと思う。
- KBCでは伝統的に博多祇園山笠にまつわる情報やニュースを夕方帯のニュース番組「シリタカ！」（以前は「ニュースピア」などの番組）で伝えてきた。今年も日々の行事や話題を伝えながら、長い歴史の中で蓄積されたKBCにしかない知見やアーカイブ映像を使い、通常の「走れ！山笠」とのすみ分けを行った。
- ゲストは「知っているようで知らない」との番組コンセプトに合うよう人選した。また、放送時間が昼帯なので、シニア層に限らず（通常は博多祇園山笠にあまり関心がないであろう）若年層など、より多くの視聴者にご覧いただくため、ゲストの年齢層やキャラクターを勘案した。ただし、ゲストの役回りを十分に描ききれなかったという部分は反省点。少し「軽い」と捉えられた部分は課題として今後の番組制作に役立てたい。
- 詳しい知識もなくさほど関心も高いとは言えない番組制作担当者すら「延期」の知らせに傷ついた。と言うことは、博多祇園山笠に関わる人のダメージはもっと大きいと想像し、博多祇園山笠に関わる人たちを応援したいという気持ちで番組制作に当たった。そうした意識が強すぎたため、少し内輪話になってしまった。ご指摘は今後の番組制作に役立てたい。

などの説明をしました。